



国際的に活躍する専修人を紹介する「Globali 専tion(グローバル「専」ション)」。今回は米国カンザス大学で言語学を研究している勝田浩令さん(平23文、平25院文修)に登壇いただく。

カンザス大学客員助教授

### 勝田 浩令さん(平23文、平25院文修)

HIRONORI KATSUDA



気づけば海外に残るという選択肢が当たり前になっていました。カナダのトロント大学を経て、2024年8月にカンザス大に採用されました。学生も教職員も米国人が大多数で、教えている私が学生よりも英語ができないという状況です。日々試行錯誤しながら挑戦を続けています。

—これまでを振り返ってみて。

ここに至るまで、とても時間がかかっています。そして今でも苦労は絶えません。そもそも、大学に入学してすぐのTOEIC®では全く点数が取れず、英語のクラスは一番下でした。目標とするコースやゼミに入るために、地道に英語を勉強し続けました。

そうしていく中で大学入学以来、「人生最良の日、に何度か恵まれました。これは、時間をかけて挑戦を続けてきたからこそ、得られたものだ」と確信しています。更新していけるように、精進していきたいと思っています。

### 専大生へのメッセージ

You miss 100% of the shots you don't take.

直訳すると「打たなかったシュートは100%外れる」ですが、「チャンスをつかむにはまず挑戦しなければならぬ」という意味になります。私が普段から意識している考えです。

在学生の皆さんが 本当に好きなことを見つけて挑戦し、良い縁に恵まれ、たくさんの人生最良の日を経験していくことを心から願っています。

## 時間をかけて挑戦し続け、人生最良の日、更新

—研究職へのきっかけは。

文学部英語英米文学科3年次で三浦弘ゼミに入り、音声学を学んだときから研究者になりたいと思っていました。ある時、三浦先生に打ち明けたら、「ロンドン大学(UCL)に行ったらいいよ」と助言してもらって。当時、UCLに行くなんて全く考えてもいませんでした。でもおかげでその姿を想像できるようになり、それほど難しいことではないと思えるようになりました。

—実際に本学修士課程1年次にUCLのサマースクールに参加、その後正規留学されました。

3週間のサマースクールは初めての本格的な海外経験でした。現地での調査をもとに英語で学会発表し、UCLの先生に聞いていただいたのは感慨深かったです。専大博士課程を休学しUCLに正規留学。人生の中でも最も楽しい1年間でした。

その後は帰国の予定でしたが、米国でPhD(博士号)を取ろうと決めました。

—思い切った決断ですね。

懸命に勉強して恩師に推薦状を書いてもらい、米国UCLAの博士課程へ進みましたが、最初の2年間は地獄でした。上級生との実力差に打ちのめされ、課題も多くて常に寝不足。自分はどうしようもないと無力感に苛まれました。英語力のなさを痛感し、話すことをためらうようになりました。

今考えれば、自分で思い込んでいただけなんです。外国人にとって、ネイティブと同じように話せないのは当然。それを他のことでカバーする努力がとても大切なのだと気づきました。

ある時、勇気を振り絞って発言してみたんです。すると周囲の人が認めてくれた。そういった行動を積み重ねることで、応援してくれる人も増えていきました。できないなりに頑張る姿を見せること、これが集団の中で成長するには大事だと強く思っています。

—博士号を取得した後は。

# 在学学生2人が合格

## 最終合格者数 全国私大で9位

国家公務員採用総合職試験(大卒程度)教養区分に在学学生2人が合格した(12月12日人事院発表)。

今年度の本学の国家公務員採用総合職試験合格者は、5月に発表された春試験合格16人と合わせて合計18人になり、最終合格者数は全国私大で第9位。

合格したのは、文学部3年次生と経済学部1年次生。2人は1月17日、佐々木キャンパスと富士市をつないだ報告会

木重人学長に合格を報告。佐々木学長は「今後、応援していきたい」と激励した。

### 商・高橋義仁ゼミ

経営戦略やビジネスプランニングについて学ぶ商学部・高橋義仁ゼミでは、さまざまな分野のエキスパートを招いて講義を行っている。12月16日、太田油脂(株)専務取締役で元本学学友会会長の後藤康夫さんを特別講師に迎え、人材と経営をテーマに授業を行った。

### 「人材と経営」学ぶ

後藤さんは、豊年製油(現・J-オイルミルズ)に入社以来、長く人事部門で従業員の評価、教育、採用業務などに携わってきた。2021年度には学友会会長を務め、専大生の活躍や成長を見守った。

経営の考え方を紹介し、豊富な実務経験を踏まえ、講義を行った後藤さん。実務で得た気づきをフレームワークを使って学術的に解説。学生たちにも、「一つ上の役職や立場に立つて物事を考える」「視点転換」が重要「アピリティ(能力)ではなく、コンピテンシー(高い成果を安定的に生み出す個人の行動特性や能力)を



### 報告

殿村晋一氏(このむら・しんいち)名誉教授・元商学部教授 12月14日、87歳で死去。1966年から2008年まで在職。専門は商業史。

### 河野真太郎 著

本書は孤独論であり、英文学を軸とした近代文学論でもある。現在、孤独や孤立が社会問題化される一方、それを解消するにあたって、孤独「ぼっち」はぜひとも避けるべきであるという思い込みが強くなる。それがむしろ孤独を生み出しているかもしれない。

本書では、ロンリネス(悪い孤独)とソリチュエード(良い孤独)の区別を足がかりに、「ロビンソン・クルソー」から『ジェイン・エア』『シヤロック・ホームズ』や、『ヴァージニア・ウルフ』の作品など(さらに現代の漫画やアニメ)を巡って、近代に孤独の観念がいかにして発明され、人々がどう応答していったかを検討する。最終的には現代の排除型社会を克服するための問題提起を提示している。(筑摩書房・税込込み990円)

### 村井 智哉さん

経済1 世田谷学園高

※ほかに1人が合格

### 知見を広げ、人間的に成長したい

高校のころから将来のキャリアの選択肢に公務員が含まれていた村井さん。本学入学と同時にエクステンションセンターの公務員試験講座を受講。教養区分は19歳から受験できると知り、「力試しだと思って」受験した。教養区分は、企画立案にかかる基礎的な能力の検証を重視した試験区分。1次試験は基礎能力試験と総合論文で、村井さんは「もとも教養分野は苦手ではなかったため、講座を活用しながら勉強を進めていった」と振り返る。「現実感がなくなると、2次と進み、合格の知らせに自分自身が驚いた」という。合格の有効期間は6年6ヵ月。最終目標は「国家公務員総合職として活躍することと決めているが、そこに至るまでの道は模索中だ。」「卒業時にどんな人間になれるか、問われていると思う。与えられた時間を有効活用して、知見を広げ、人間としても成長していきたい」と誓う。

### 経営・足代ゼミ

#### 富士市のPR動画を制作

経営学部の足代訓史ゼミは、ビジネス構想力や問題解決力の修得を目的に、デジタルインベーションやアントレプレナーシップについて学んでいる。今年度は静岡県富士市と連携したPBL型活動を実施。後期は3年次生13人が同市で実地調査や取材・撮影を行い、3チームが2本ずつ計6本のPR動画を制作した。



1月20日、生田キャンパスと富士市ワールドワークセンターをオンラインでつなぎ、市関係者に披露した。

富士茶や「田子の浦しらす」など特産品のPRや、カフェ巡りを通じたまちの魅力を紹介。ゼミ生は、「SNSに対応した短時間・縦型の動画にすることで若者への訴求力を高めた」などと制作のポイントを説明した。

市関係者からは「私たちが発信したいことを代弁してくれている」「実際の広報活動に使いたい」といった感想が寄せられた。

定山佳樹さんは「現地調査や撮影は大変だったが、教室で学んだ理論を実践してみることが多く、気づきを得られた」と手応えを語った。

### 専修人の新しい本

社会民主主義と社会主義

松井暁 著

本書ではこの展望の根拠を、今日の福祉国家が直面する四つの問題、すなわち経済成長が定常状態か、「労働の解放」か、「労働からの解放」か、国家の存続が危ぶれるか、ナショナリズムがコスモポリタニズムに取り組みすることを通じて提示する。(専修大学出版局・税込込み3080円)